

5～11 歳の新型コロナウイルスワクチンについて

Q.なぜ 5～11 歳での接種が必要なのでしょう？

小児においても少ないですが、酸素を必要とするような中等症から重症になる場合があります。今後、全年齢の感染者数が増加した場合に、ワクチン未接種である小児の割合が増加し、中等症や重症例が増えると予想されています。とくに基礎疾患^{*}をもつ小児では重症化リスクが増大するといわれています。

^{*}QR コードを読み取り基礎疾患について確認ください。



Q.どのような効果が期待されますか？

現在使用できるワクチンはファイザー社製のワクチンです。

5～11 歳でも 16～25 歳と同等に抗体上昇が認められ、発症予防効果は 90.7%と有効性が評価されています。

ただし、これらのデータはオミクロン株流行前のものであり、オミクロン株に対する有効性は現時点で十分にあるとはいえません。

Q.接種する量や回数は成人と同じですか？

12 歳以上とは別製剤で、12 歳以上で使用する量（30 μ g=0.3ml）の 1/3（10 μ g=0.2ml）になります。接種回数は 12 歳以上と同様に 3 週間以上の間隔で 2 回接種します。

Q.どのような副反応がありますか？

12 歳以上と同様、接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱などの症状がみられることがあります。ただし、殆どが軽度～中等度で回復していることから安全性に重大な懸念はないとしています。

発現割合	症状
50%以上	接種部位の痛み、疲労
10～50%	頭痛、注射部位の発赤・腫脹、筋肉痛、悪寒
1～10%	嘔吐、下痢、発熱、関節痛

5～11 歳男児においても 2 回目接種時に心筋炎が報告されています。ただし、12 歳以上の若い男性（ファイザー社製で 100 万人当たり 12～14 歳、15～19 歳でそれぞれ 26 例程度）と比較して出現頻度は低いとされています。

Q.接種時に必要なものはありますか？

原則、保護者の同伴で、母子手帳の持参をお願いします。